

「性能評価を踏まえた超高層建築物の構造設計実務

—超高層・免震建築物の構造設計者が実際に行ってきた検討と判断を集大成—

第1版第1刷 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正しお詫び申し上げます。

2020/7/27

該当箇所		誤	正																																																																																								
頁	行等																																																																																										
16	下から8行目	・・・, 25 cm/s, 50 cm/s と速度で 規 準化する。・・・	・・・, 25 cm/s, 50 cm/s と速度で 基 準化する。・・・																																																																																								
	下から7行目	・・・, これらを最大速度で 規 準化したものと, 最大加速度で 規 準化・・・	・・・, これらを最大速度で 基 準化したものと, 最大加速度で 基 準化・・・																																																																																								
44	下から4行目	・・・外 教 材が破損しない・・・	・・・外 装 材が破損しない・・・																																																																																								
334	下から1行目	式 (7.4-1) $\mu = C \cdot (N_f)^{\beta}$	式 (7.4-1) $\mu = C \cdot (N_f)^{-\beta}$																																																																																								
340	上から13行目	(式 7.4-10) $\frac{b \mu_{\max}}{s \mu_{\max}}$	(式 7.4-10) *分母式の片カッコを削除 $\frac{b \mu_{\max}}{s \mu_{\max}}$																																																																																								
341	上から2行目	・・・, ② を最大変形角とすると, ②-① / ① が最大塑性率であり,・・・	・・・, ⑤ を最大変形角とすると, ⑤ / ① が最大塑性率であり,・・・																																																																																								
346	表 7.4-5	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">曲げモーメント</th> <th rowspan="2">設計用曲げモーメント (補正值)</th> <th rowspan="2">全塑性モーメント</th> <th rowspan="2">断面算定</th> </tr> <tr> <th>長期</th> <th>地震時</th> <th>上下動</th> <th>設計用</th> </tr> <tr> <th>M_L</th> <th>M_E</th> <th>M_V</th> <th>M_D</th> <th>M_D'</th> <th>M_P</th> <th>M_D'/M_P</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,891</td> <td>1,897</td> <td>1,357</td> <td>5,145</td> <td>→ 4,919</td> <td rowspan="2">4,680</td> <td rowspan="2">0.41</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$</td> </tr> <tr> <td>1,000</td> <td>-47</td> <td>718</td> <td>1,671</td> <td>→ 1,897</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	曲げモーメント				設計用曲げモーメント (補正值)	全塑性モーメント	断面算定	長期	地震時	上下動	設計用	M_L	M_E	M_V	M_D	M_D'	M_P	M_D'/M_P	1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919	4,680	0.41					$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$	1,000	-47	718	1,671	→ 1,897							$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">曲げモーメント</th> <th rowspan="2">設計用曲げモーメント (補正值)</th> <th rowspan="2">全塑性モーメント</th> <th rowspan="2">断面算定</th> </tr> <tr> <th>長期</th> <th>地震時</th> <th>上下動</th> <th>設計用</th> </tr> <tr> <th>M_L</th> <th>M_E</th> <th>M_V</th> <th>M_D</th> <th>M_D'</th> <th>M_P</th> <th>M_D'/M_P</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,891</td> <td>1,897</td> <td>1,357</td> <td>5,145</td> <td>→ 4,919</td> <td rowspan="2">4,680</td> <td rowspan="2">0.63</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$</td> </tr> <tr> <td>1,000</td> <td>-47</td> <td>1,753</td> <td>2,706</td> <td>→ 2,932</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	曲げモーメント				設計用曲げモーメント (補正值)	全塑性モーメント	断面算定	長期	地震時	上下動	設計用	M_L	M_E	M_V	M_D	M_D'	M_P	M_D'/M_P	1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919	4,680	0.63					$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$	1,000	-47	1,753	2,706	→ 2,932							$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$		
曲げモーメント				設計用曲げモーメント (補正值)	全塑性モーメント	断面算定																																																																																					
長期	地震時	上下動	設計用																																																																																								
M_L	M_E	M_V	M_D	M_D'	M_P	M_D'/M_P																																																																																					
1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919	4,680	0.41																																																																																					
				$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																							
1,000	-47	718	1,671	→ 1,897																																																																																							
				$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																							
曲げモーメント				設計用曲げモーメント (補正值)	全塑性モーメント	断面算定																																																																																					
長期	地震時	上下動	設計用																																																																																								
M_L	M_E	M_V	M_D	M_D'	M_P	M_D'/M_P																																																																																					
1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919	4,680	0.63																																																																																					
				$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																							
1,000	-47	1,753	2,706	→ 2,932																																																																																							
				$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																							
	図 7.4-15	(図中の式の数値) $M_D' = M_D + \Delta M = 1671 + 226 = 1897 \text{ kN}\cdot\text{m}$	(図中の式の数値) $M_D' = M_D + \Delta M = 2706 + 226 = 2932 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																								
482	下から8行目	・・・第三号イに定めた暴風および 第三四 号イに・・・	・・・第三号イに定めた暴風および 第四 号イに・・・																																																																																								
	下から7行目	三号口に定めた暴風および 第三 号イに・・・	三号口に定めた暴風および 第四 号イに・・・																																																																																								
491	下から1行目	・・・, 本建築物の特定天井の水平震度 1.0G を設定した。	・・・, 本建築物の特定天井の水平震度 1.0 を設定した。																																																																																								